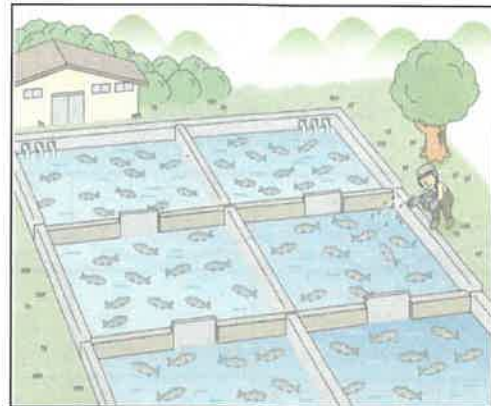


統計データから見た 沖縄の農林水産業

統計で ひと・もの・暮らし
見えてくる



政府統計

数字の先に映し出せ
新たな時代 僕らの未来

内閣府沖縄総合事務局農林水産部統計調査課

令和元年10月

はじめに

この小冊子は、10月18日の「統計の日」にちなんで、当課が毎年開催している「統計データから見た沖縄の農林水産業～「消費者の部屋」特別展示～」において、沖縄県の農林水産業の現状について、分かりやすくグラフ等で紹介するための資料として、最新の農林水産統計調査の結果を用いて作成したものです。

10月18日は『統計の日』

～我が国における近代統計の始まり～

我が国最初の近代的統計である「府県物産表」（農林水産物や鉱業生産物の生産高をまとめたもの）に関する太政官布告の公布日が10月18日（明治3年9月24日（太陰暦）が現行の太陽暦では10月18日にあたる。）であることから、国民の統計に対する関心と理解が深まり、国や地方公共団体などが実施する統計調査へより一層の協力が得られることを目的として、10月18日を「統計の日」と定めたものです。

利用者のために

- 1 統計数値は、原則として下表の基準によりラウンド（四捨五入）したため、計と内訳が一致しない場合があります。

原 数		7 桁以上 (100万)	6 桁 (10万)	5 桁 (万)	4 桁 (千)	3 桁以下 (百)
ラウンド する 桁 (下から)		3 桁	2 桁	2 桁	1 桁	ラウンド しない
例	ラウンドする 前 の 数 値	1, 234, 567	123, 456	12, 345	1, 234	123
	ラウンド し た 数 値	1, 235, 000	123, 500	12, 300	1, 230	123

- 2 統計表中に使った記号は、次のとおりです。

「－」 事実のないもの
「…」 事実不詳又は調査を欠くもの
「0」 単位に満たないもの
「△」 負数又は減少（下落）したもの
「x」 秘密保護上統計数値を公表しないもの
「…」 未発表のもの



このマークは、統計法に基づく国の統計調査であることを示し、調査票情報の秘密保護に万全を期すことをお約束するものです。

目 次

1	沖縄県の概況	1
2	農家数、農業就業人口及び耕作放棄地面積	2
3	耕地面積	3
4	水稻の作付面積及び収穫量	4
5	さとうきびの収穫面積及び収穫量	5
6	野菜の作付面積、収穫量及び出荷量	6
7	パインアップルの収穫面積、収穫量及び出荷量	7
8	花き(切り花類)の作付面積及び出荷量	8
9	家畜の飼養戸数及び飼養頭羽数	9
10	さとうきび生産費	11
11	農業産出額	12
12	青果物の卸売数量及び卸売価格	14
13	生乳及び飲用牛乳等の生産量	15
14	林野面積・林家数及び林業産出額	16
15	漁業生産量及び漁業産出額	17
16	農業・農村及び漁業・漁村の6次産業化	18
付録	沖縄の農林漁業主要指標	19

1 沖縄県の概況

■面積、人口、総生産等

【面積】

総土地面積	228,100ha
耕地面積	38,000ha
水田面積	822ha
林野面積	111,196ha

【人口・就業者数】

総人口	1,433,566人
男性人口	704,619人
女性人口	728,947人

総就業者数	589,634人
第1次産業就業者数	26,593人
第2次産業就業者数	81,508人
第3次産業就業者数	433,334人
(総就業者数は分類不能産業を含む。)	

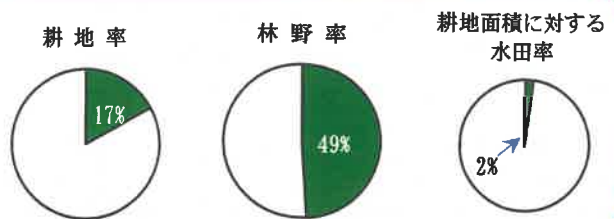
【世帯数】

総世帯数	560,424世帯
総農家数	20,056戸
林家数	397戸
漁業経営体数	2,616経営体

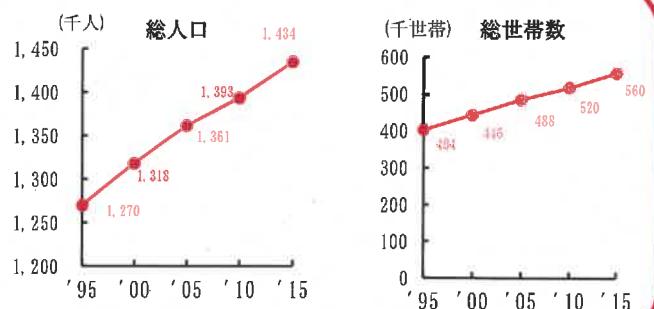
【総生産(平成28年度)】

県内総生産	4兆2,820億円
第1次産業 (農業・林業・水産業)	757億円
第2次産業 (鉱業・製造業・建設業)	6,531億円
第3次産業 (サービス業等)	3兆5,747億円
※輸入品に課される税等を算入していないため、計と内訳が一致しません。	
1人当たり県民所得	227万円
1人当たり国民所得	308万円

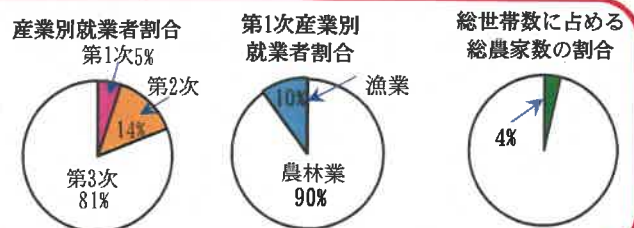
■面積



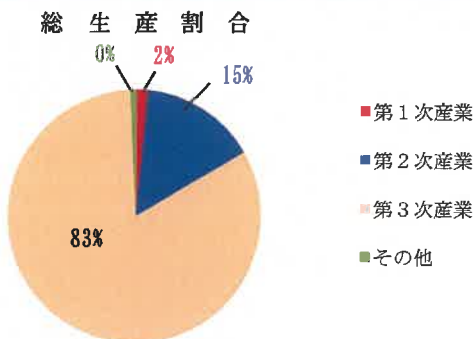
■総人口・総世帯数の動き



■就業者

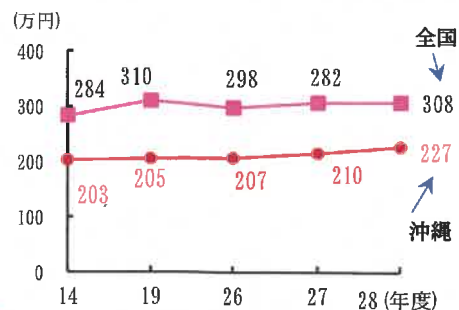


■総生産割合



注：単位未満の数値は四捨五入しています。

一人当たり所得



資料：総土地面積は、国土地理院『平成30年全国都道府県市区町村別面積調』。林野面積、総農家数、林家数は、農林水産省大臣官房統計部『2015年農林業センサス』。耕地面積は、農林水産省大臣官房統計部『平成30年耕地面積調査』。人口、就業者数及び世帯数は、総務省統計局『平成27年国勢調査』。漁業経営体数(個人)は、農林水産省大臣官房統計部『2013年漁業センサス』。総生産は、内閣府『国民経済計算』、沖縄県『平成29年度県民経済計算(県民所得統計)』。

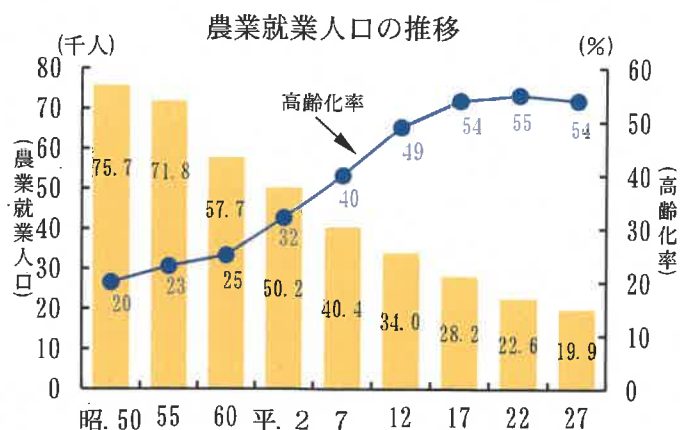
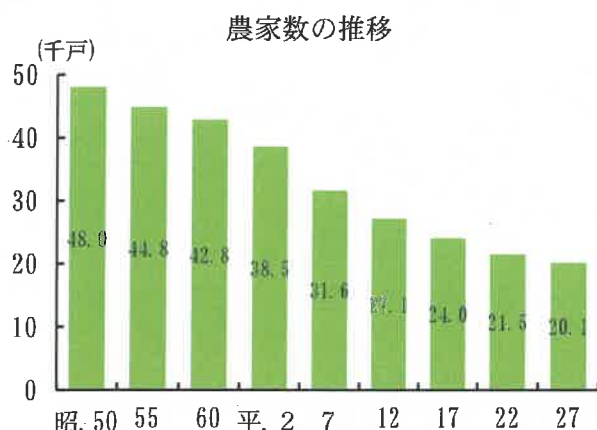
2 農家数、農業就業人口及び耕作放棄地面積

1 農家数及び農業就業人口 - 農家数及び農業就業人口はともに減少 -

農家数は減少傾向で推移しており、平成27年は2万56戸で昭和50年の4万8,018戸と比べて半数以下となっています。

農業生産を担う農業就業人口は年々減少を続け、平成27年は1万9,916人で昭和50年の7万5,715人と比べて3割以下の水準となっています。

農業就業人口に占める65歳以上の割合（高齢化率）は、若年層の農業離れなどにより、平成22年55%、平成27年54%と半数以上を占めており、年々高齢化が進んでいます。



【農家数及び農業就業人口の推移】

単位：戸、人

区 分	昭. 50	55	60	平. 2	7	12	17	22	27
総 農 家 数	48,018	44,823	42,820	38,512	31,588	27,088	24,014	21,547	20,056
農業就業人口	75,715	71,814	57,670	50,191	40,363	34,005	28,224	22,575	19,916
うち、65歳以上	15,420	16,466	14,267	15,941	15,974	16,572	15,253	12,329	10,761
高齢化率 (%)	20	23	25	32	40	49	54	55	54

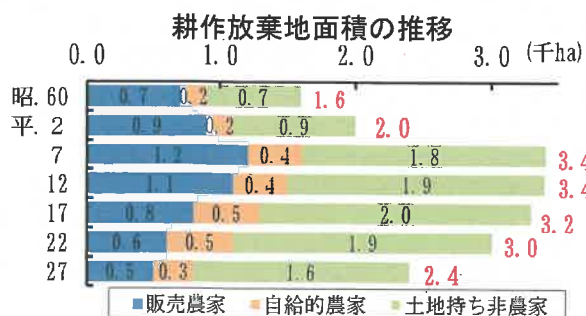
資料：農林水産省大臣官房統計部『農林業センサス』

2 耕作放棄地面積 - 平成12年から27年まで減少 -

耕作放棄地面積は平成7年まで増加していましたが、平成12年から27年までの耕作放棄地面積は減少しています。

平成27年の耕作放棄地面積は2,445haで、平成12年の3,411haに比べて966ha (28%) 減少しました。

これは、主に販売農家において耕作放棄地面積が減少したためです。



【農林業センサスからみた耕作放棄地面積の推移】

単位：ha

区 分	昭. 60	平. 2	7	12	17	22	27
計	1,555	1,977	3,424	3,411	3,240	2,994	2,445
販 売 農 家	696	872	1,248	1,080	780	634	513
自給的農家	176	237	381	443	494	455	343
土 地 持 ち 非 農 家	683	868	1,795	1,888	1,966	1,906	1,590

資料：農林水産省大臣官房統計部『農林業センサス』

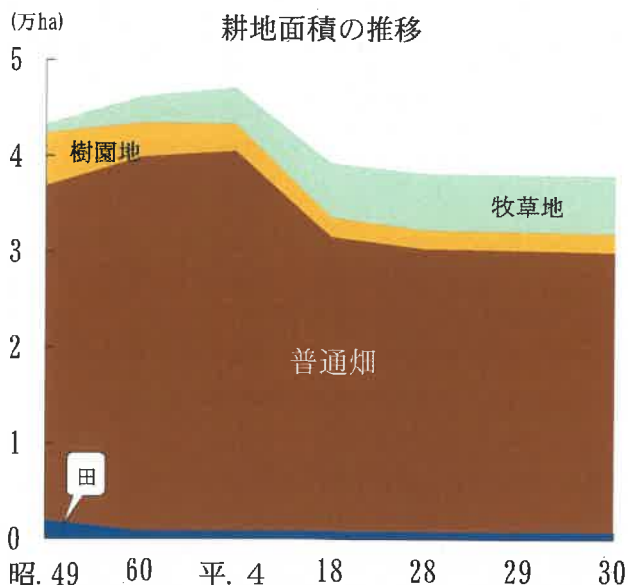
3 耕 地 面 積

— 畑が98%を占める —

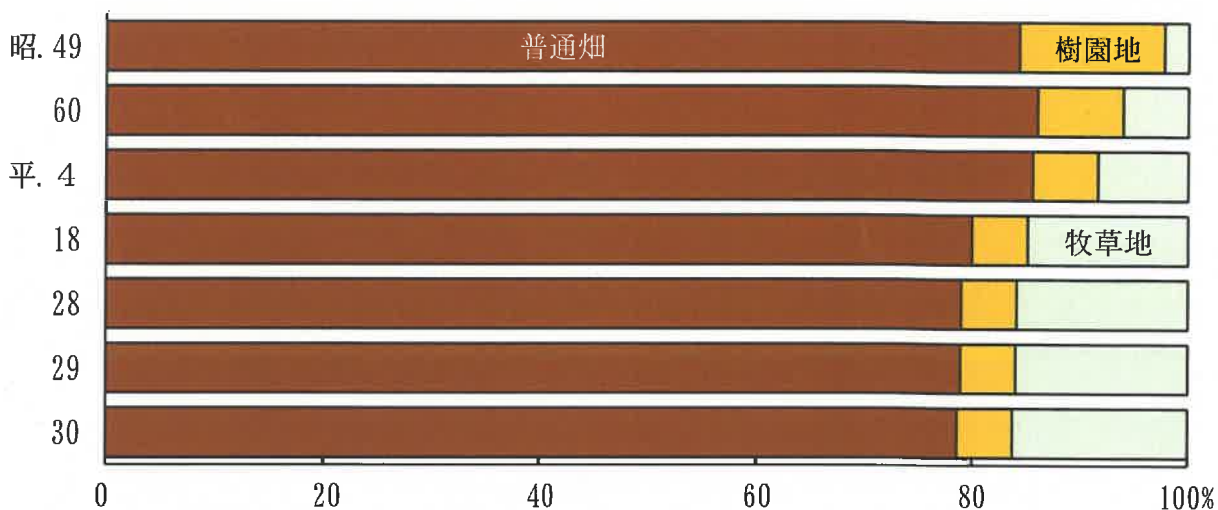
耕地面積は、現行調査を開始した昭和49年以降、平成4年の4万7,100haをピークに減少傾向で推移しており、平成30年は3万8,000haで、昭和49年の約9割となっています。このうち畑が3万7,200haで全体の98%を占め、田は2%です。(全国計では耕地面積に占める畑の割合は約46%です。)

畑を種類別にみると、普通畑が最も多く、樹園地は、パインアップルなどの減少により、平成30年は昭和49年の35%となっています。

牧草地は、肉用牛の増加に伴い、平成30年は昭和49年の約6倍の増加となっています。



畑種類別構成比の推移



【耕地面積の推移】

単位：ha

区 分	昭. 49	60	平. 4	18	28	29	30
計	43,400	46,200	47,100	39,200	38,200	38,000	38,000
田	1,980	871	890	874	838	822	822
畑 計	41,400	45,300	46,200	38,400	37,400	37,200	37,200
普通畑	34,900	39,000	39,600	30,700	29,500	29,400	29,200
樹園地	5,520	3,580	2,810	2,000	1,940	1,930	1,940
牧草地	934	2,720	3,820	5,680	5,910	5,930	6,020

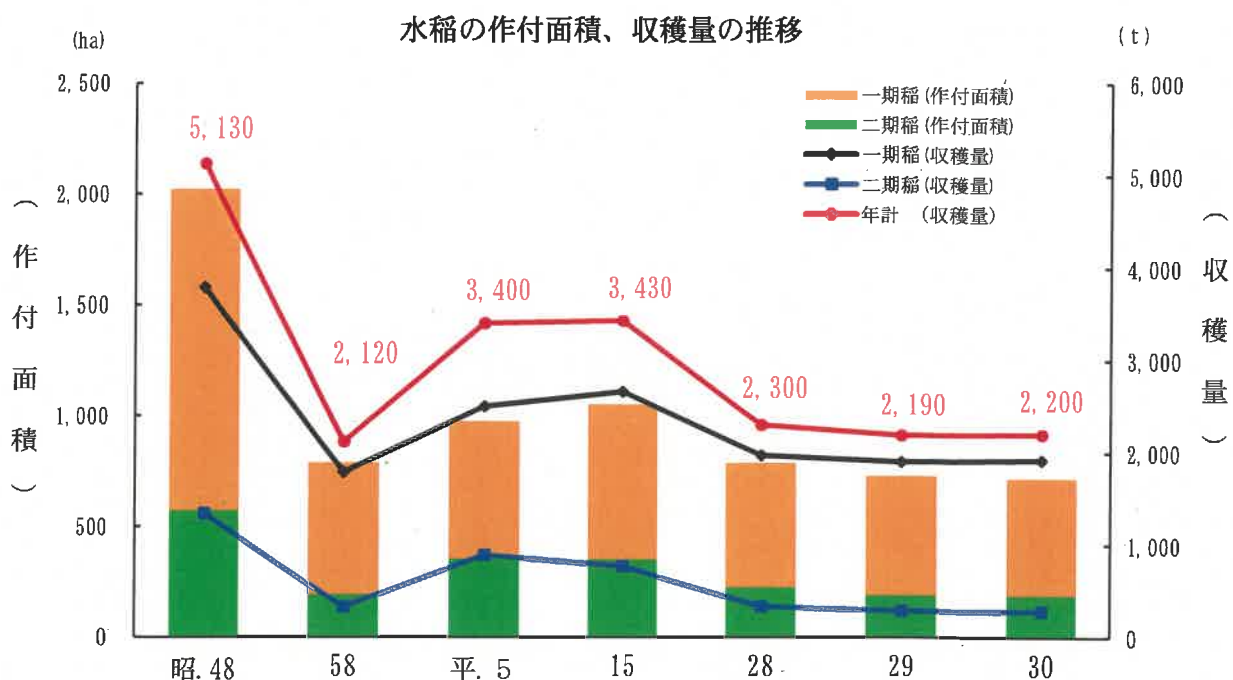
資料：農林水産省大臣官房統計部『耕地面積調査』

4 水稻の作付面積及び収穫量

－ 平成30年産 前年産より作付面積は減少 －

平成30年産の水稻作付面積（一期稲・二期稲計）は716haで、前年産に比べて11ha（2％）減少し、収穫量（一期稲・二期稲計）は2,200tで、前年産に比べて10t（0.5％）増加しました。

また、復帰後の昭和48年産に比べると作付面積は1,304ha（65％）、収穫量は2,930t（57％）減少しています。これは、生産農家の高齢化による離農等があったためです。



【水稻の作付面積、10a 当たり収量及び収穫量の推移】

単位 { 作付面積: ha
10a 当たり収量: kg
収 穫 量: t

区分	作付面積			10a 当たり収量			収 穫 量		
	一期稲	二期稲		一期稲	二期稲		一期稲	二期稲	
昭. 48	2,020	1,450	571	254	262	234	5,130	3,790	1,340
58	786	593	193	270	302	171	2,120	1,790	330
平. 5	973	619	354	349	404	252	3,400	2,500	891
15	1,050	698	351	327	381	219	3,430	2,660	769
28	785	560	225	293	351	148	2,300	1,970	333
29	727	537	190	301	354	151	2,190	1,900	287
30	716	527	189	307	364	149	2,200	1,920	282

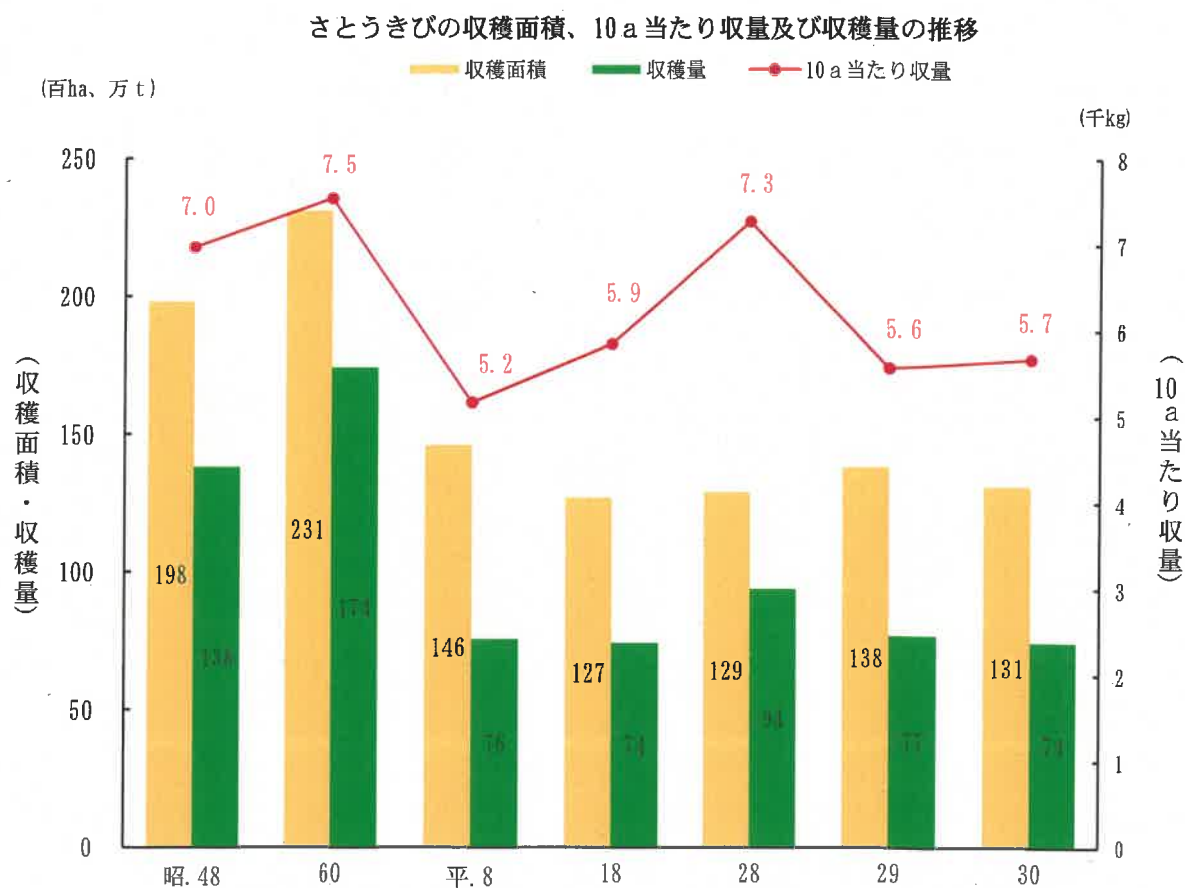
資料：農林水産省大臣官房統計部『水稻調査』

5 さとうきびの収穫面積及び収穫量

－ 平成30年産の収穫量は前年産に比べて3%減少 －

さとうきびの収穫面積は、昭和60年産以降、減少傾向で推移しており、平成30年産の収穫面積は1万3,100haで昭和48年産の約7割となっています。なお、前年産に比べると700ha(5%)減少しました。これは、他作物への転換等があったためです。

また、平成30年産の収穫量は74万2,800tで、前年産に比べて2万6,100t(3%)減少しました。



【さとうきびの収穫面積、10a当たり収量及び収穫量の推移】

区 分	単位						
	収 穫 面 積 : ha 10 a 当たり収量 : kg 収 穫 量 : t						
区 分	昭. 48	60	平. 8	18	28	29	30
収 穫 面 積	19,800	23,100	14,600	12,700	12,900	13,800	13,100
10 a 当たり収量	6,970	7,540	5,170	5,850	7,270	5,570	5,670
収 穫 量	1,380,000	1,741,000	756,200	742,500	937,800	768,900	742,800

資料：農林水産省大臣官房統計部『甘味資源作物調査』

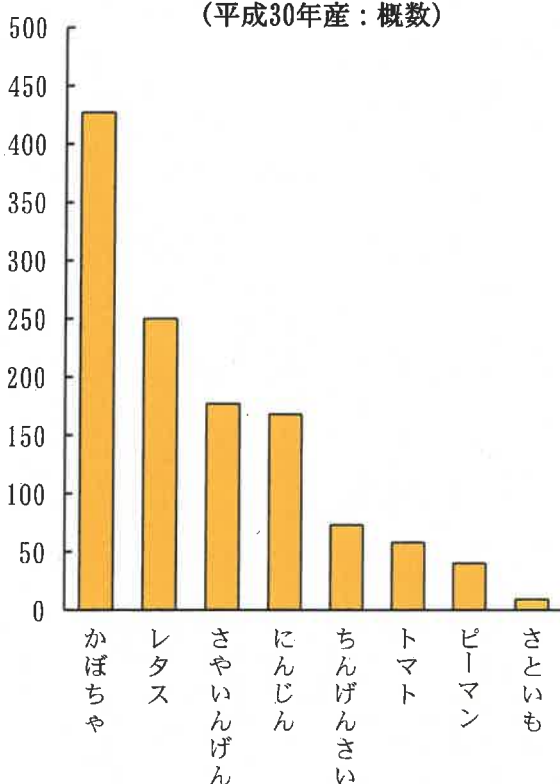
注：昭和48年産データは沖縄県農林水産部『さとうきび及び甘しゅ糖生産実績』

6 野菜の作付面積、収穫量及び出荷量

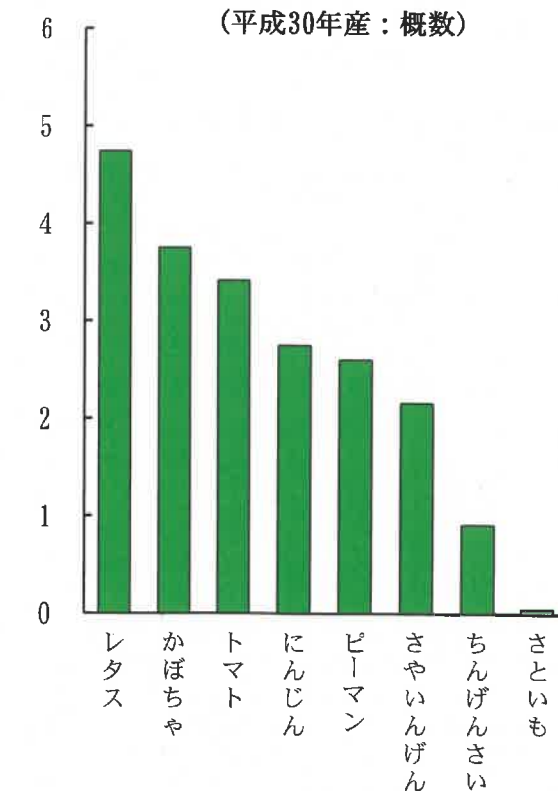
－ かぼちゃが作付面積で1位、レタスが収穫量で1位 －

平成30年産野菜調査の調査品目^(注)において、作付面積はかぼちゃが1位で427ha、次いでレタス250ha、さやいんげん177haの順となっています。収穫量はレタスが1位で4,740t、次いでかぼちゃ3,750t、トマト3,410tの順となっています。

(ha) 作付面積の大きい野菜
(平成30年産：概数)



(千t) 収穫量の多い野菜
(平成30年産：概数)



【平成30年産調査野菜の作付面積、収穫量及び出荷量（概数）】

品 目	作付面積	収穫量	出荷量	品 目	作付面積	収穫量	出荷量
	ha	t	t		ha	t	t
に ん じ ん	168	2,750	2,320	ト マ ト	58	3,410	3,000
さ と い も	9	47	41	うち、ミニトマト	14	572	515
ち ん げ ん さ い	73	913	770	ピ ー マ ン	40	2,600	2,290
レ タ ス	250	4,740	4,110	うち、ししとう	1	10	8
うち、サラダ菜	7	73	61	さやいんげん	177	2,160	2,000
か ぼ ち ゃ	427	3,750	3,330				

資料：農林水産省大臣官房統計部『野菜生産出荷統計』

注：調査品目は、指定野菜及び指定野菜に準ずる野菜のうち、全国において沖縄県が主産県となっている品目であり、沖縄県内において作付けされている全ての品目を調査対象としたものではありません。

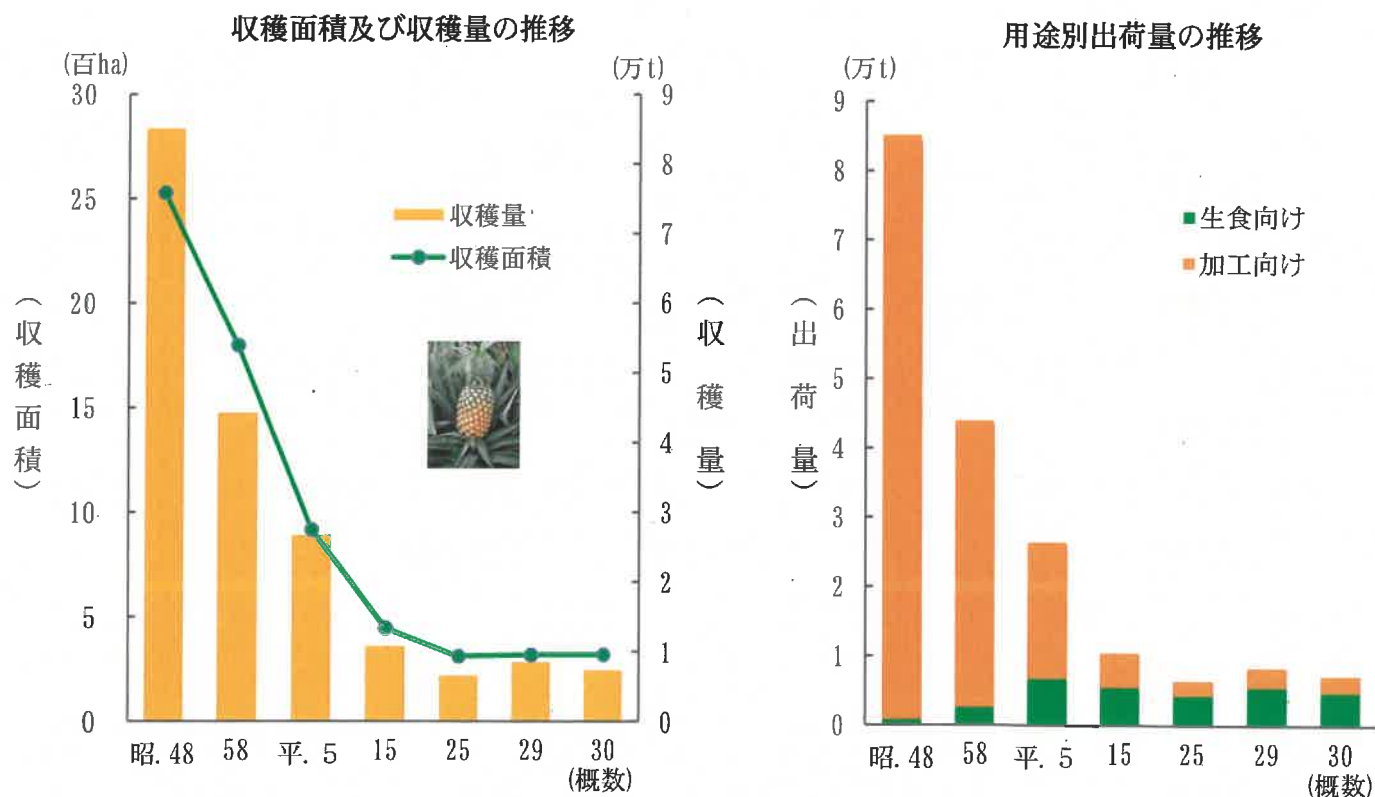
7 パインアップルの収穫面積、収穫量及び出荷量

－ 収穫面積は前年産並み、収穫量及び出荷量は5年ぶりに減少 －

・パインアップルについては、復帰後は昭和48年産をピークに、安価な外国産パインアップルの輸入増加やパインアップル缶詰の輸入自由化の影響に伴う生産農家数の減少等により収穫面積及び収穫量とも減少傾向にありましたが、収穫面積は平成27年産から増加に転じています。

平成30年産の収穫面積は319haで前年産並みとなりましたが、収穫量は少雨による茎葉の生育不良や果実肥大の抑制があったことに加え、収穫期に台風による被害が発生したため7,340tとなり、前年産に比べ1,160t (14%) 減少し、5年ぶりの減少となりました。

出荷量は7,160tで、前年産に比べ1,150t (14%) 減少しました。これを用途別にみると、生食向けは4,780t、加工向けは2,380tで、前年産に比べそれぞれ740t (13%)、410t (15%) 減少しました。



【パインアップルの収穫面積、収穫量及び出荷量の推移】

単位 { 収穫面積 : ha
収穫量・出荷量 : t

区 分	昭. 48年産	58	平. 5	15	25	29	30 (概数)
収 穫 面 積	2,530	1,800	917	448	311	317	319
収 穫 量	85,100	44,300	26,700	10,800	6,590	8,500	7,340
出 荷 量	85,100	43,900	26,500	10,500	6,410	8,310	7,160
うち生食向け	835	2,600	6,730	5,500	4,310	5,520	4,780
うち加工向け	84,300	41,300	19,700	4,960	2,100	2,790	2,380

資料：農林水産省大臣官房統計部『果樹生産出荷統計』

注：昭和48年産の収穫面積は、便宜上、12月現在における植え付け後2年以上の栽培面積を計上しています。

8 花き(切り花類)の作付面積及び出荷量

－ 平成30年産花き(切り花類)の出荷量は前年産より9%減少 －

切り花類の作付面積は、昭和53年産以降増加傾向で推移しましたが、近年は概ね横ばいで推移し、平成30年産は976haで、前年産並みとなりました。

主な品目別に作付面積割合をみると、きくが80%、洋ラン類が2%、その他切り花が18%となっています。

また、平成30年産の出荷量は2億9,670万本で、前年産に比べ3,000万本(9%)少しました。

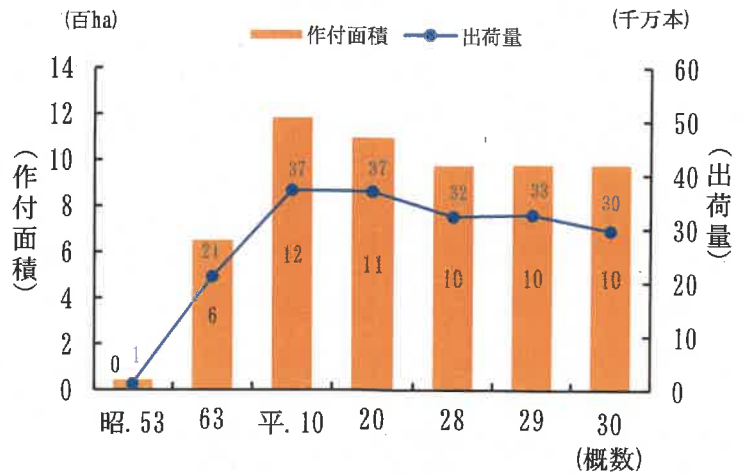
① きく

きくの作付面積の推移をみると、近年は概ね横ばいで推移しており、平成30年産の作付面積は784haで前年産並み、出荷量は2億5,560万本で、前年産に比べ2,810万本(10%)減少しました。

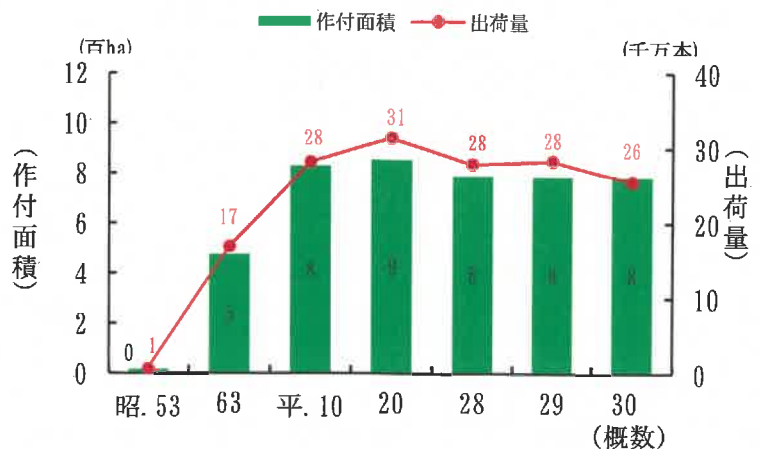
② 洋ラン類

洋ラン類の平成30年産の作付面積は16haで、前年産に比べ70a(5%)、出荷量は172万本で、前年産に比べ23万本(15%)それぞれ増加しました。

切り花類の作付面積及び出荷量の推移



きくの作付面積及び出荷量の推移



【花き(切り花類)の作付面積及び出荷量の推移】

区 分	切り花類計		き く		洋ラン類		その他の切り花	
	作付面積 (a)	出荷量 (千本)	作付面積 (a)	出荷量 (千本)	作付面積 (a)	出荷量 (千本)	作付面積 (a)	出荷量 (千本)
昭. 53	4,200	10,942	1,500	6,060	-	-	2,700	4,882
63	64,800	211,000	47,600	169,300	2,800	4,230	14,400	37,470
平. 10	118,000	372,100	82,800	281,400	4,900	6,600	30,300	84,100
20	109,400	369,500	85,400	314,500	2,640	2,730	21,360	52,270
28	97,700	324,000	78,900	279,600	1,540	1,530	17,260	42,870
29	97,800	326,700	78,600	283,700	1,510	1,490	17,690	41,510
30	97,600	296,700	78,400	255,600	1,580	1,720	17,620	39,380

資料：農林水産省大臣官房統計部『花き調査』

9 家畜の飼養戸数及び飼養頭羽数

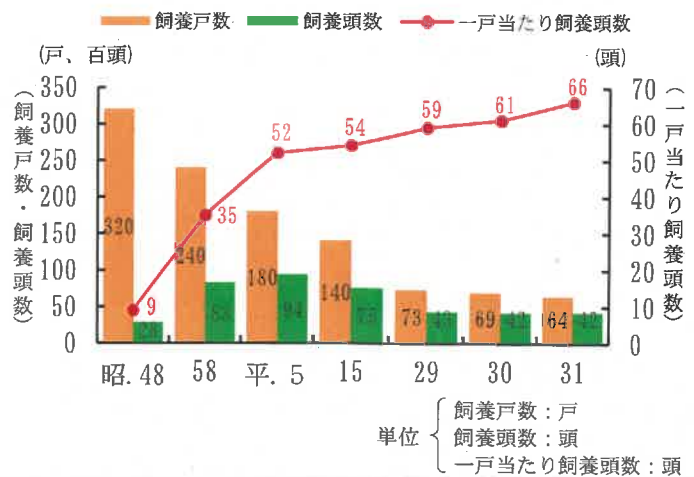
1 乳用牛 ー飼養戸数が減少、大規模化が進むー

乳用牛の平成31年の飼養戸数は64戸で、前年に比べ5戸(7%)減少しています。昭和48年と比べると256戸の減少となっています。

また、平成31年の飼養頭数は4,230頭で、前年に比べ40頭増加し、昭和48年と比べると約1.5倍に増加しています。

一戸当たりの飼養頭数は66頭で、昭和48年の約7倍に増加しており、大規模化が進んでいます。

乳用牛の飼養戸数及び飼養頭数の推移



【乳用牛の飼養戸数及び飼養頭数の推移】

区 分	昭. 48	58	平. 5	15	29	30	31 (概数)
飼 養 戸 数	320	240	180	140	73	69	64
飼 養 頭 数	2,840	8,280	9,350	7,530	4,310	4,190	4,230
一戸当たり飼養頭数	9	35	52	54	59	61	66

資料：農林水産省大臣官房統計部『畜産統計調査』

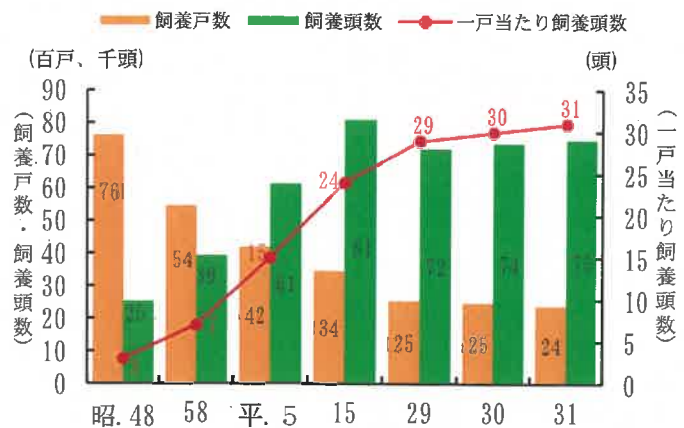
2 肉用牛 ー飼養戸数が減少、大規模化が進むー

肉用牛の平成31年の飼養戸数は2,380戸で、前年に比べ90戸(4%)減少しています。昭和48年と比べると農家の高齢化による離農等のため大幅に減少しています。

また、平成31年の飼養頭数は7万4,700頭で前年に比べ1,100頭(2%)増加しました。昭和48年と比べると約3倍に増加していますが、これは、優良繁殖雌牛導入にかかる補助事業等によるものです。

一戸当たりの飼養頭数は31頭で、昭和48年の約10倍に増加しており、大規模化が進んでいます。

肉用牛の飼養戸数及び飼養頭数の推移



【肉用牛の飼養戸数及び飼養頭数の推移】

区 分	昭. 48	58	平. 5	15	29	30	31 (概数)
飼 養 戸 数	7,620	5,440	4,170	3,440	2,530	2,470	2,380
飼 養 頭 数	25,200	39,200	61,200	81,000	72,000	73,600	74,700
一戸当たり飼養頭数	3	7	15	24	29	30	31

資料：農林水産省大臣官房統計部『畜産統計調査』

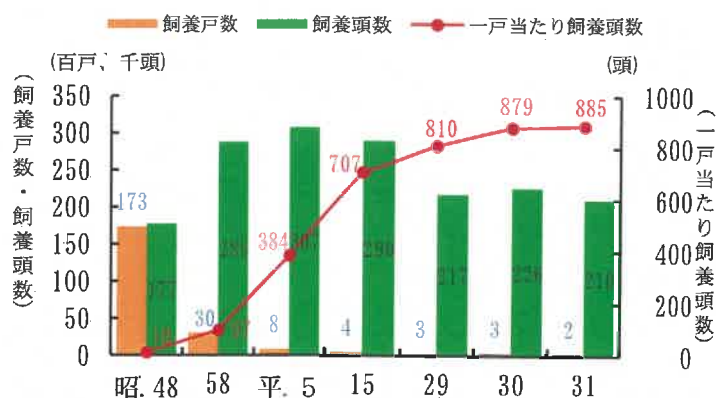
3 豚 — 飼養戸数が減少、大規模化が進む —

豚の平成31年の飼養戸数は237戸で、前年に比べ20戸（8％）減少しており、昭和48年と比べると大幅な減少となっています。

また、平成31年の飼養頭数は20万9,800頭で、前年に比べ16,000頭（7％）減少しましたが、昭和48年と比べると3万2,800頭（19％）増加しています。

一戸当たり飼養頭数は885頭で、昭和48年の89倍に増加しており、大規模化が進んでいます。

豚の飼養戸数及び飼養頭数の推移



【豚の飼養戸数及び飼養頭数の推移】

区 分	昭. 48	58	平. 5	15	29	30	31 (概数)
飼 養 戸 数	17,300	2,970	800	410	268	257	237
飼 養 頭 数	177,000	287,900	307,000	289,700	217,200	225,800	209,800
一戸当たり飼養頭数	10	97	384	707	810	879	885

資料：農林水産省大臣官房統計部『畜産統計調査』

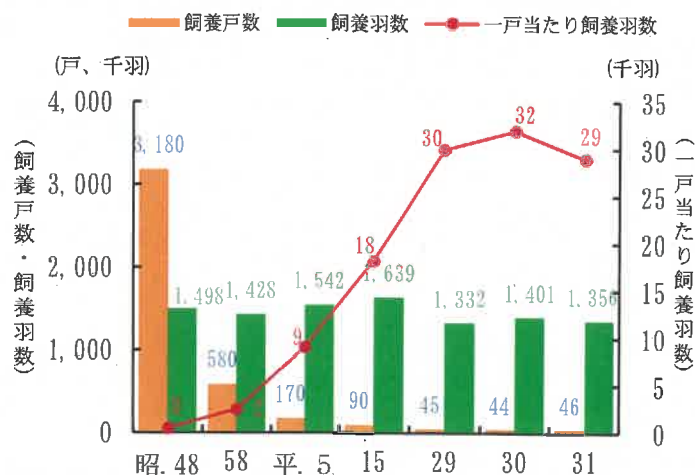
4 採卵鶏 — 飼養戸数が減少、大規模化が進む —

採卵鶏の平成31年の飼養戸数（種鶏のみの飼養者及び成鶏めす1,000羽未満の飼養者は除く。）は46戸で、前年に比べ2戸（5％）増加しているが、昭和48年と比べると大幅に減少しています。

また、平成31年の飼養羽数（種鶏を除く。）は135万6,000羽で、前年に比べ4万5,000羽（3％）減少しており、昭和48年と比べると14万2,000羽（9％）減少しています。

一戸当たり飼養羽数は2万9,000羽で、昭和48年に比べると増加しており大規模化が進んでいます。

採卵鶏の飼養戸数及び飼養羽数の推移



【採卵鶏の飼養戸数及び飼養羽数の推移】

区 分	昭. 48	58	平. 5	15	29	30	31 (概数)
飼 養 戸 数	3,180	580	170	90	45	44	46
飼 養 羽 数	1,498	1,428	1,542	1,639	1,332	1,401	1,356
一戸当たり飼養羽数	0	2	9	18	30	32	29

資料：農林水産省大臣官房統計部『畜産統計調査』

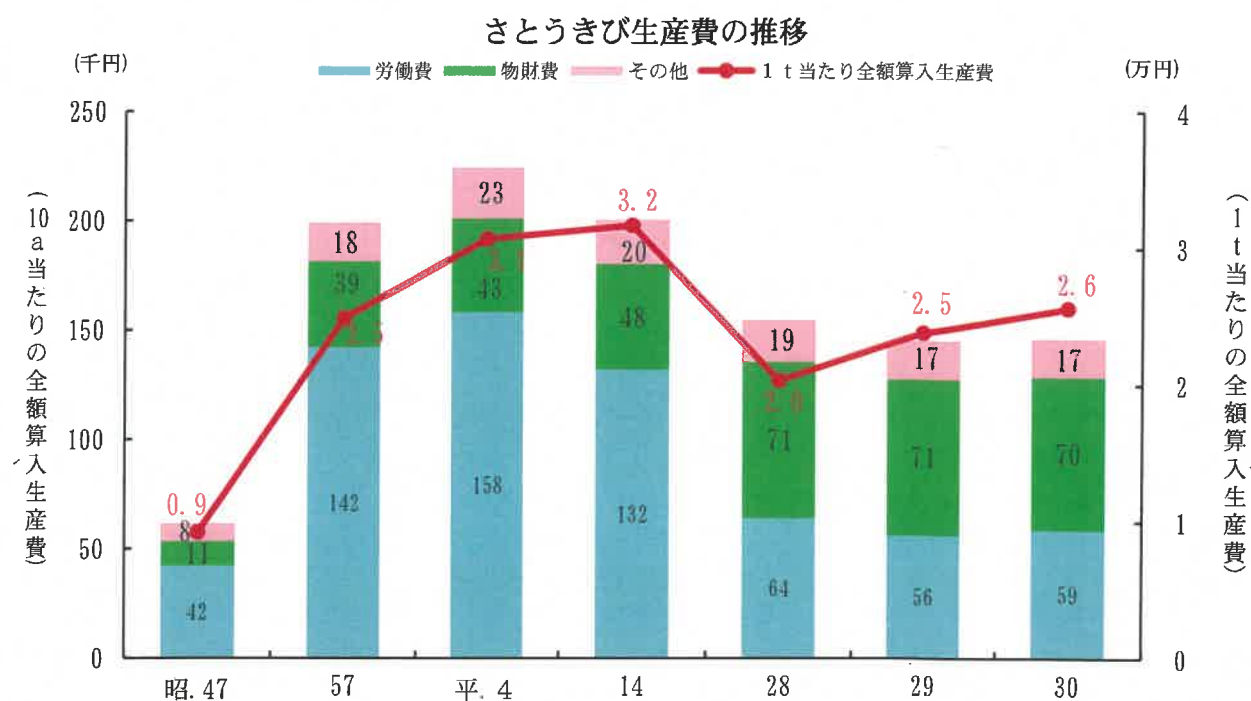
注：平成5年は成鶏めす羽数300羽未満の飼養者を除く、平成15年以降は1,000羽未満を除く、昭和58年以前は全数調査。

10 さとうきび生産費

－ 平成30年産は前年産に比べ増加 －

平成30年産さとうきびの10 a当たり生産費(全額算入生産費)は14万6,083円で、前年産に比べ968円(1%)増加となっており、労働費は増加、物財費は減少しています。

1 t 当たりでみると、生産費(全額算入生産費)は2万5,646円で、前年産に比べ1,844円(8%)増加しています。



【さとうきび生産費の推移】

単位 { 金額: 円
収量: kg

区 分		昭. 47	57	平. 4	14	28	29	30
10 a 当たり	資本利子・地代全額算入生産費	61,378	198,979	224,244	200,327	154,614	145,115	146,083
	支払利子・地代算入生産費	53,377	181,458	202,973	183,644	140,834	132,810	135,725
	生産費(副産物価額差引)	53,377	181,458	201,005	180,165	135,467	127,594	128,697
	労働費	42,334	142,102	158,184	131,917	63,970	56,206	58,667
	物財費	11,043	39,356	42,821	48,248	71,497	71,388	70,030
	収 量	6,661	7,994	7,312	6,329	7,614	6,096	5,696
1 t 当たり	資本利子・地代全額算入生産費	9,216	24,893	30,667	31,653	20,308	23,802	25,646
	支払利子・地代算入生産費	8,015	22,701	27,758	29,017	18,498	21,784	23,828
	生産費(副産物価額差引)	8,015	22,701	27,488	28,467	17,793	20,928	22,594
	労働費	6,356	17,777	21,633	20,844	8,401	9,218	10,301
	物財費	1,659	4,924	5,855	7,623	9,392	11,710	12,293

資料：農林水産省大臣官房統計部『農業経営統計調査 さとうきび生産費統計』

11 農 業 産 出 額

1

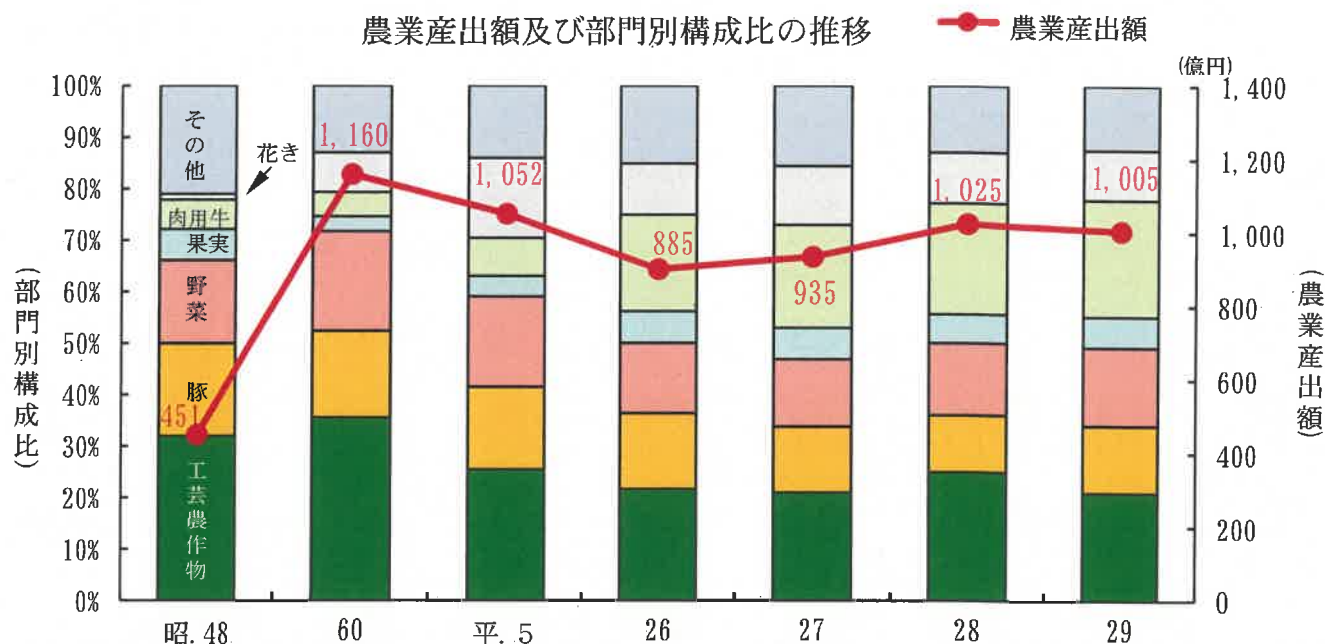
－農業産出額は1,005億円で、昨年に引き続き1,000億円を達成－

平成29年農業産出額は1,005億円で、前年に比べ20億円（1.9％）減少しました。

これは、さとうきびの産出額が49億円（22.5％）減少したことが主な要因です。

また、農業産出額を部門別にみると、耕種部門は547億円で、前年に比べ37億円（6.3％）減少しました。畜産部門は457億円で、前年に比べて17億円（3.9％）の増加となりました。

平成29年の農業産出額に占める部門別構成割合は、肉用牛が23％と最も高く、次にさとうきびが17％、豚が13％と続いています。



【農業産出額及び構成比の推移】

単位：億円、（ ）は％

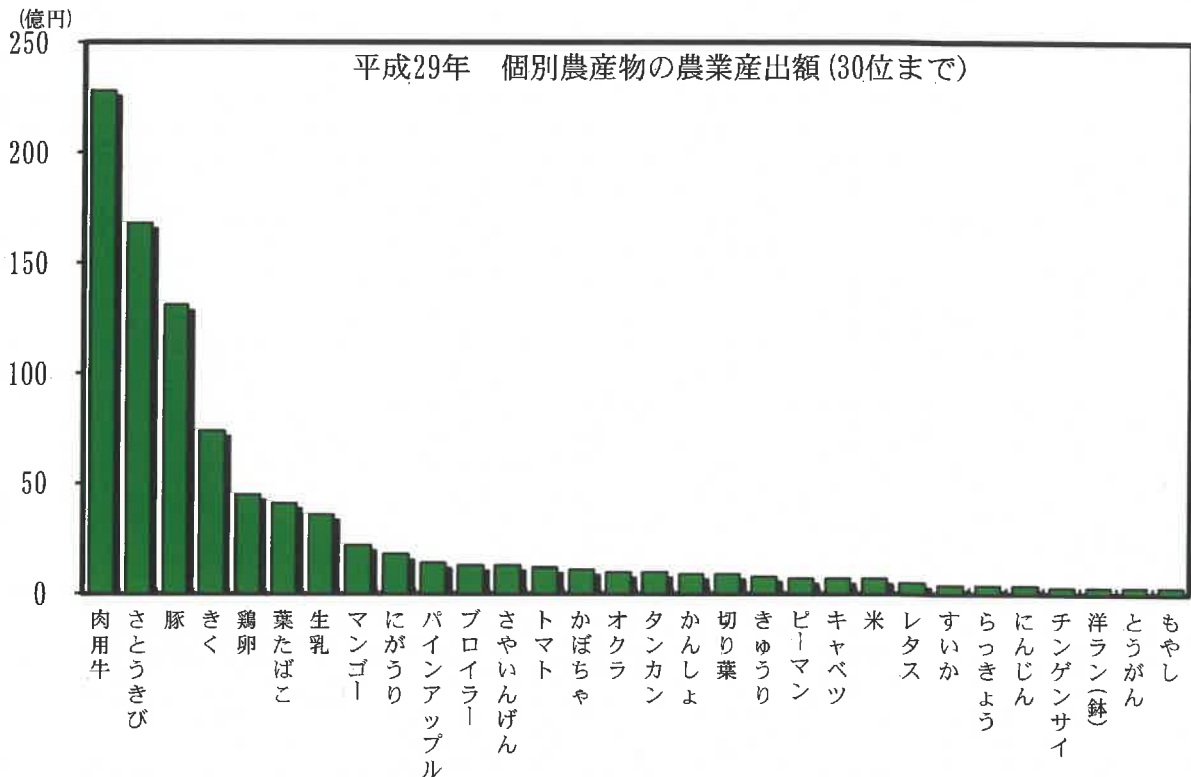
区 分	昭. 48		60		平. 5		26		27		28		29	
農業産出額	451	(100)	1, 160	(100)	1, 052	(100)	901	(100)	935	(100)	1, 025	(100)	1, 005	(100)
耕種部門	280	(62)	795	(69)	699	(66)	490	(54)	508	(54)	584	(57)	547	(54)
野 菜	73	(16)	225	(19)	185	(18)	123	(14)	122	(13)	144	(14)	153	(15)
果 実	27	(6)	33	(3)	42	(4)	55	(6)	57	(6)	57	(6)	60	(6)
花 き	5	(1)	89	(8)	163	(15)	90	(10)	107	(11)	101	(10)	97	(10)
工芸農作物	144	(32)	412	(36)	268	(25)	195	(22)	196	(21)	256	(25)	210	(21)
うちさとうきび	138	(31)	374	(32)	221	(21)	153	(17)	162	(17)	217	(21)	168	(17)
畜産部門	171	(38)	362	(31)	352	(33)	411	(46)	426	(46)	440	(43)	457	(46)
肉用牛	26	(6)	50	(4)	78	(7)	169	(19)	187	(20)	221	(22)	228	(23)
豚	81	(18)	195	(17)	168	(16)	133	(15)	120	(13)	113	(11)	131	(13)

資料：農林水産省大臣官房統計部『生産農業所得統計』

2 個別農産物の農業産出額 ―上位10品目で約8割を占める―

平成29年の農業産出額を個別農産物別にみると、肉用牛が228億円、次いでさとうきび168億円、豚131億円、きく74億円、鶏卵45億円の順となっています。肉用牛からパイナップルまでの上位10品目で農業産出額全体の約8割を占めています。

なお、昭和48年の個別農産物の農業産出額は、さとうきびが138億円、次いで豚81億円、鶏卵35億円、肉用牛26億円、パイナップル26億円の順でした。



【平成29年個別農産物の順位と農業産出額】

単位：億円

順位	農産物	産出額	順位	農産物	産出額	順位	農産物	産出額
1 (4)	肉用牛	228	11 (6)	ブロイラー	13	21 (7)	キャベツ	7
2 (1)	さとうきび	168	12 (25)	さやいんげん	13	22 (9)	米	7
3 (2)	豚	131	13 (26)	トマト	12	23 (24)	レタス	5
4 (31)	きく	74	14 (28)	かぼちゃ	11	24 (22)	すいか	4
5 (3)	鶏卵	45	15 (…)	オクラ	10	25 (…)	らっきょう	4
6 (13)	葉たばこ	41	16 (…)	タンカン	10	26 (10)	にんじん	4
7 (16)	生乳	36	17 (14)	かんしょ	9	27 (…)	チンゲンサイ	3
8 (…)	マンゴー	22	18 (…)	切り葉	9	28 (…)	洋ラン(鉢)	3
9 (11)	にがうり	18	19 (12)	きゅうり	8	29 (29)	とうがん	3
10 (5)	パイナップル	14	20 (49)	ピーマン	7	30 (…)	もやし	3

資料：農林水産省大臣官房統計部『生産農業所得統計』

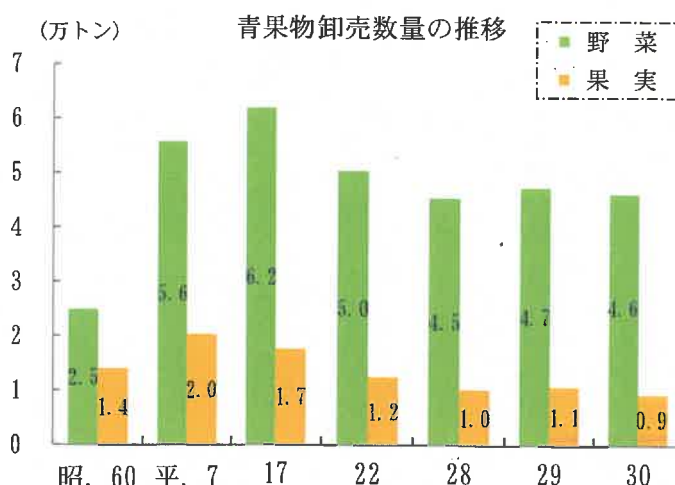
注：() 書きは昭和48年の順位です。

12 青果物の卸売数量及び卸売価格

1 卸売数量 — 野菜、果実ともに前年に比べ減少 —

沖縄県中央卸売市場における平成30年の野菜の卸売数量は4万6,057 tで、前年に比べ1,176 t (2 %) 減少、果実の卸売数量は9,266 tで前年に比べ1,341 t (13 %) 減少しました。

野菜は、昭和60年の2万4,850 tに比べ2万1,207 t (85 %) 増加し、果実は1万3,891 tに比べ4,625 t (33 %) 減少しました。野菜は、レタス、かぼちゃ、たまねぎ等の入荷量が減少したこと、また、果実はすいか、りんご、マンゴー等の入荷量が減少したことによるものです。



【卸売数量の推移】

単位: t

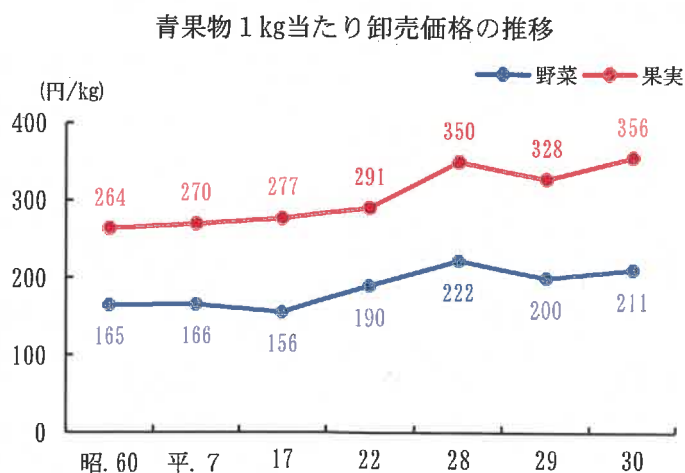
区 分	昭. 60	平. 7	17	22	28	29	30
野 菜	24,850	55,656	61,787	50,267	45,296	47,233	46,057
果 実	13,891	20,191	17,485	12,364	10,099	10,607	9,266

資料: 農林水産省大臣官房統計部『青果物卸売市場調査』、注: 30年は概数値

2 卸売価格 — 野菜、果実ともに前年に比べ上昇 —

平成30年の野菜の1 kg当たり卸売価格は211円で、前年に比べ11円 (6 %) 上昇し、昭和60年の165円に比べると46円 (28 %) 上昇しました。

また、平成30年の果実の1 kg当たり卸売価格は356円で、前年に比べ28円 (9 %) 上昇し、昭和60年の264円と比べると92円 (35 %) 上昇しました。



【卸売価格の推移】

単位: 円/kg当たり

区 分	昭. 60	平. 7	17	22	28	29	30
野 菜	165	166	156	190	222	200	211
果 実	264	270	277	291	350	328	356

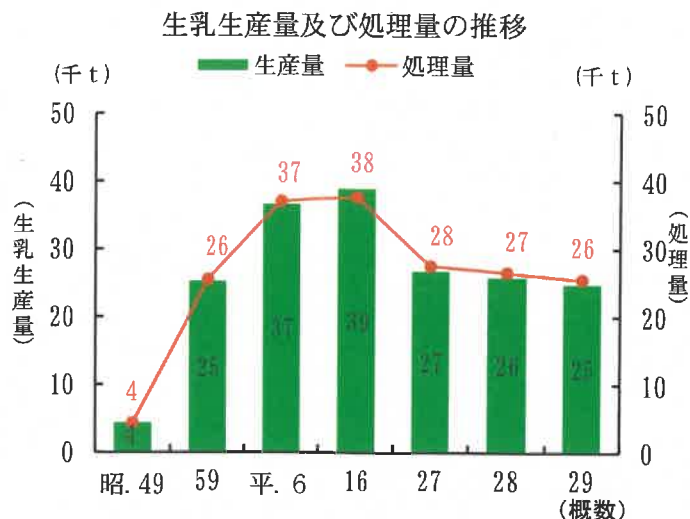
資料: 農林水産省大臣官房統計部『青果物卸売市場調査』、注: 30年は概数値

13 生乳及び飲用牛乳等の生産量

1 生乳の生産量及び処理量 — 近年は同水準で推移 —

平成29年の沖縄県の生乳生産量は2万4,758 tで、昭和49年に比べ2万402 t (468%) 増加しました。これは、乳用牛の飼養頭数が増加したこと等によるものです。

沖縄県の生乳処理量は2万5,508 tで、昭和49年に比べ2万1,152 t (486%) 増加しました。これを用途別にみると、牛乳等向けは2万5,440 tで、処理量のほとんどを占めており、昭和49年に比べ2万1,584 t (560%) 増加しました。



【生乳の生産量及び処理量の推移】

単位：t

区 分	昭. 49	59	平. 6	16	27	28	29 (概数)
生乳生産量	4,356	25,219	36,585	38,899	26,682	25,812	24,758
用途別処理量	4,356	25,520	37,050	37,708	27,516	26,577	25,508
牛乳等向	3,856	25,049	34,947	36,065	27,396	26,475	25,440
乳製品向	500	403	2,029	15,251	2	2	—
その他	—	68	74	118	118	100	68

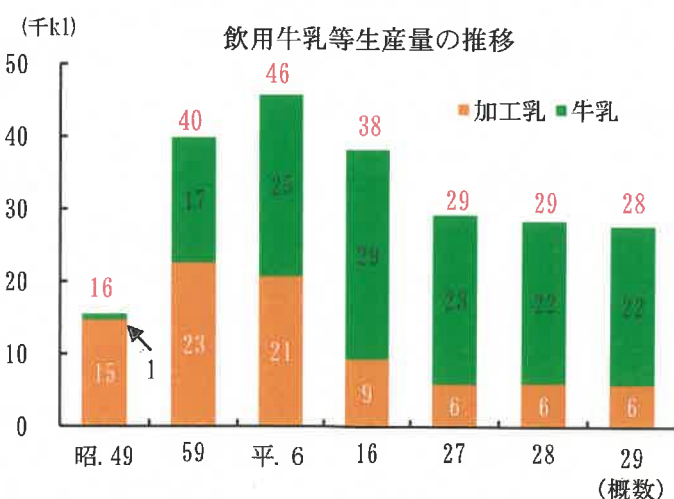
資料：農林水産省大臣官房統計部『牛乳乳製品統計調査』、注：用途別処理量は、県外からの移入量も含む。

2 飲用牛乳等生産量 — 近年は牛乳の割合が高く推移 —

平成29年の沖縄県の飲用牛乳等の生産量は2万7,717klで、昭和49年に比べ1万2,193kl (79%) 増加しました。

種類別にみると牛乳は2万1,791klで、昭和49年と比べ2万961kl (2,525%) 増加し、加工乳は5,926klで、昭和49年に比べ8,768kl (60%) 減少しました。

また、牛乳と加工乳の割合をみると昭和49年は、牛乳が5%、加工乳が95%と加工乳の割合が高かったのですが、平成29年では、牛乳が79%、加工乳が21%と牛乳の割合が高くなっています。



【飲用牛乳等生産量の推移】

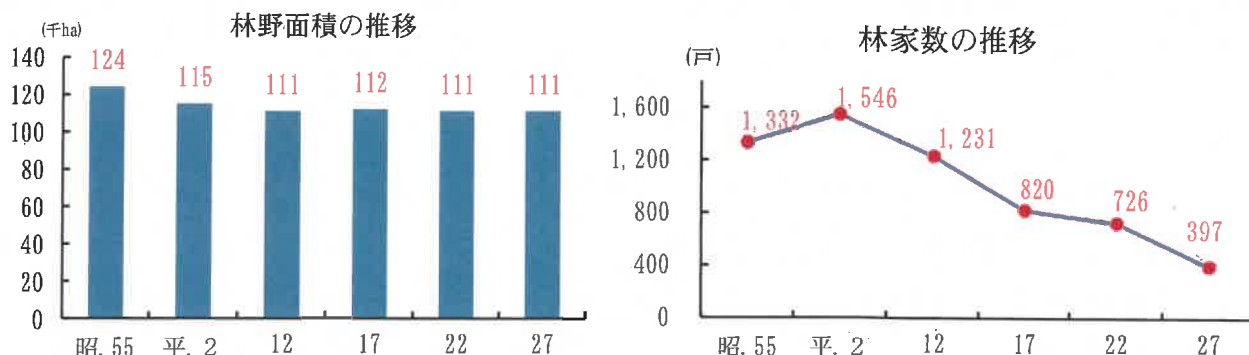
単位：kl

区 分	昭. 49	59	平. 6	16	27	28	29 (概数)
飲用牛乳等計	15,524	39,838	45,670	38,205	29,148	28,347	27,717
牛 乳	830	17,203	24,971	28,889	23,261	22,356	21,791
加 工 乳	14,694	22,635	20,699	9,316	5,887	5,991	5,926

資料：農林水産省大臣官房統計部『牛乳乳製品統計調査』

14 林野面積・林家数及び林業産出額

1 林野面積及び林家数 — 林野面積及び林家数はともに減少 —



平成27年の林野面積は11万1千haで、昭和55年に比べ13千ha (10%) 減少しました。また、平成27年の林家数は397戸で、平成2年のピーク時に比べ1,149戸 (74%) 減少しました。これは、5ha未満の林家が減少したためです。

【林野面積及び林家数の推移】

単位：千ha、戸

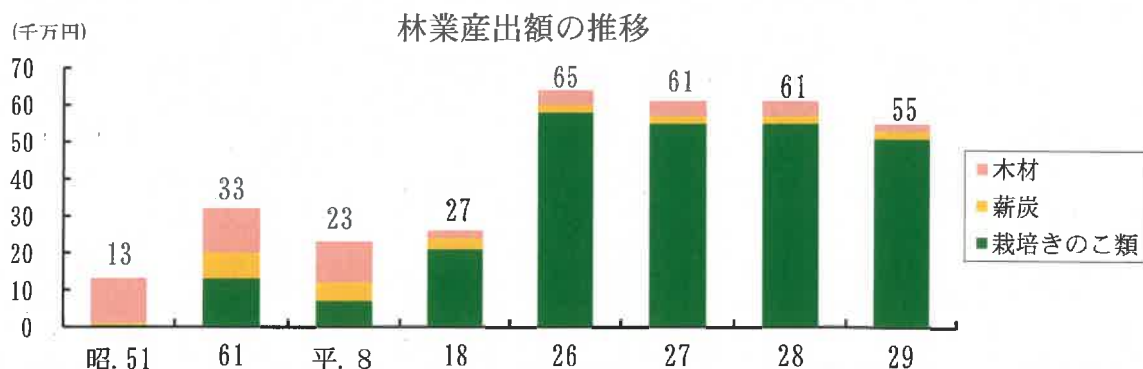
区 分	昭. 55	平. 2	12	17	22	27
林野面積	124	115	111	112	111	111
林家数	1,332	1,546	1,231	820	726	397

資料：農林水産省大臣官房統計部『農林業センサス』

注：林家とは、調査期日現在の保有山林面積が1ha以上ある世帯をいいます。

2 林業産出額 — 昨年より6千5百万円減少 —

平成29年の林業産出額は5億5千万円で、前年に比べ6千5百万円 (10.6%) 減少しました。これは、林業産出額のおよそ約9割を占める栽培きのこ類が減少したためです。昭和51年の林業産出額と比べると約4倍の増加となっています。



【林業産出額の推移】

単位：千万円

区 分	昭. 51	61	平. 8	18	26	27	28	29
林業産出額	13	33	23	27	65	61	61	55
木 材	12	12	11	2	4	4	4	2
薪 炭	1	7	5	3	2	2	2	2
栽培きのこ類	0	13	7	21	58	55	55	51

資料：農林水産省大臣官房統計部『林業産出額』

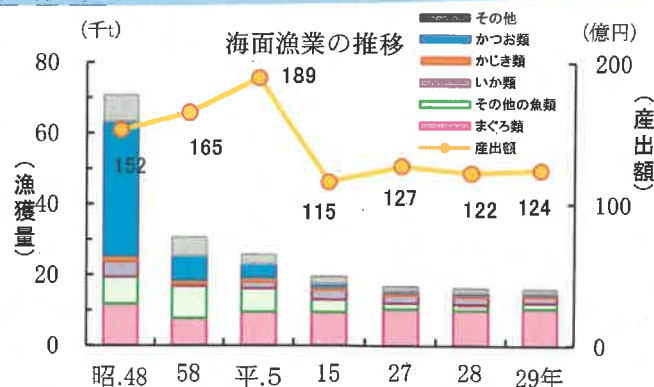
15 漁業生産量及び漁業産出額

1 海面漁業 - まぐろ類の漁獲量が第1位 -

平成29年の結果を昭和48年と比べると漁獲量で約2割、産出額で約8割の水準となっています。

昭和48年の漁獲量はかつお類が5割を占めていました。これは、主に南方基地漁業による近海かつお一本釣によるものです。

近年は、まぐろ類の割合が高くなり、平成29年は約7割となっています。



【主要魚種別漁獲量及び産出額の推移】

単位: t、百万円

年次	漁獲量	まぐろ類	かじき類	かつお類	その他の魚類	いか類	産出額
昭.48	70,678	11,712	1,698	38,048	7,635	4,229	15,234
58	30,536	7,626	1,152	6,991	9,060	576	16,480
平.5	25,681	9,518	1,290	3,874	6,578	1,755	18,885
15	19,414	9,352	892	1,150	3,591	2,676	11,542
27	16,684	10,332	823	458	1,665	2,262	12,670
28	16,158	9,965	854	539	1,697	2,071	12,163
29	15,954	10,455	705	417	1,668	1,821	12,371

資料: 農林水産省大臣官房統計部『海面漁業生産統計調査』、『漁業産出額』

2 海面養殖業 - 日本一のもずくの産地 -

平成29年の結果を昭和48年と比べると収穫量で1,895倍、産出額で259倍と大幅に増加しています。

これは、海面養殖業の9割以上を占めるもずく類において、昭和54年頃に養殖技術(ヒビ建て式養殖)が普及したことによりもずく養殖が盛んになり、全国シェアの99%を占める「日本一のもずく産地」となったことが主な要因です。

くるまえびの収穫量は、昭和48年以降堅調に推移し、平成29年の収穫量は昭和48年と比べると262倍と大幅に増加しています。

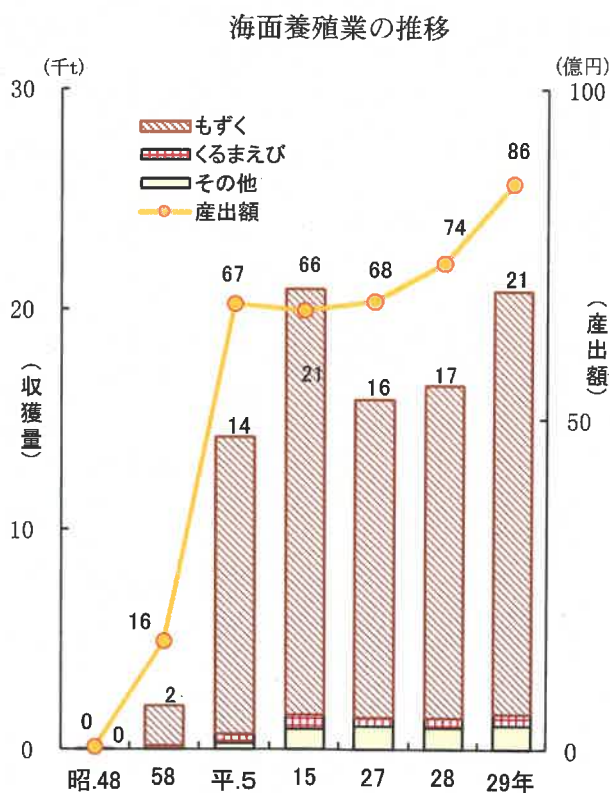
【主要魚種別収穫量及び産出額の推移】

単位: t、百万円

年次	収穫量	くるまえび	もずく類	産出額
昭.48	11	2	—	33
58	1,976	154	1,816	1,633
平.5	14,184	425	13,491	6,742
15	20,909	645	19,336	6,640
27	15,897	397	14,445	6,790
28	16,547	447	15,111	7,369
29	20,842	523	19,238	8,563

資料: 農林水産省大臣官房統計部『海面漁業生産統計調査』、『漁業産出額』

注: 平成29年漁業産出額の公表値から、中間生産物である「種苗」を除外しています。

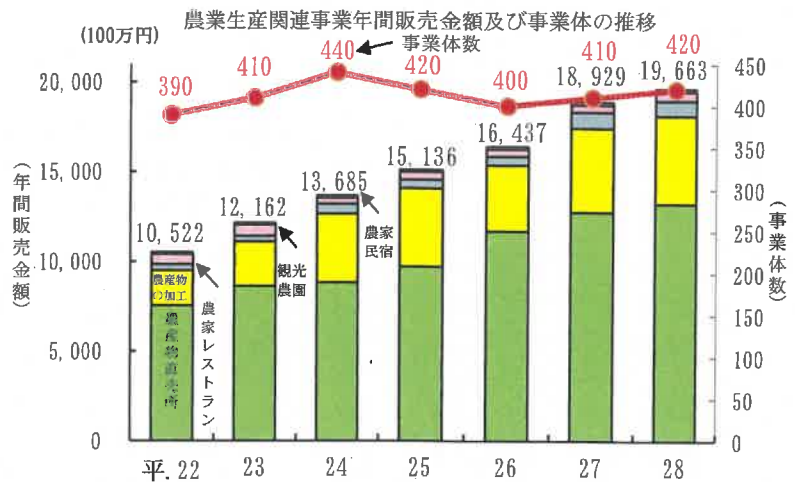


16 農業・農村及び漁業・漁村の6次産業化

1 農業生産関連事業 — 事業体数は横ばい、販売金額は増加傾向 —

本調査が始まった平成22年から事業体数は、平成24年まで増加していたものの、その後は、410事業体の前後で推移しています。

一方、年間販売金額は、増加傾向にあり、平成22年と比べると平成28年では約1.9倍まで増加しています。また、平成28年の年間販売金額の約7割は、「農産物直売所」が占めています。



【農業生産関連事業年間販売金額及び事業体数の推移】

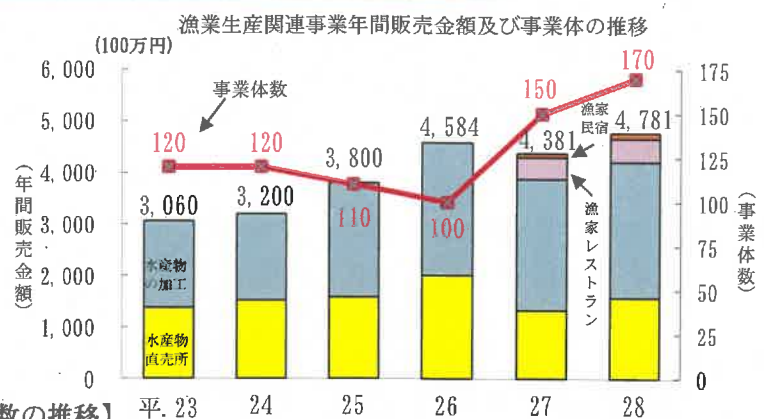
区 分	平. 22	23	24	25	26	27	28
事業体数	390	410	440	420	400	410	420
年間販売金額 (100万円)	10,522	12,162	13,685	15,136	16,437	18,929	19,663
農産物の加工	1,962	2,478	3,850	4,366	3,690	4,692	4,914
農産物直売所	7,537	8,612	8,808	9,709	11,687	12,757	13,221
観光農園	579	618	341	440	405	409	529
農家民宿	112	118	138	135	169	176	160
農家レストラン	332	338	549	486	485	895	839

資料：農林水産省大臣官房統計部『6次産業化総合調査』

2 漁業生産関連事業 — 事業体数及び販売金額は増加 —

本調査が始まった平成23年から事業体数は平成28年に1.42倍の170事業体となりました。

一方、年間販売金額は、平成26年まで増加傾向にあり、平成27年に減少したものの平成28年には再び増加しています。また、平成28年の年間販売金額の約6割は、「水産物の加工」が占めています。



【漁業生産関連事業年間販売金額及び事業体数の推移】

区 分	平. 23	24	25	26	27	28
事業体数	120	120	110	100	150	170
年間販売金額 (100万円)	3,060	3,200	3,800	4,584	4,381	4,781
水産物の加工	1,678	1,679	2,217	2,574	2,550	2,639
水産物直売所	1,382	1,521	1,583	2,010	1,331	1,577
漁家民宿	...	...	...	...	83	117
漁家レストラン	...	...	...	...	418	448

資料：農林水産省大臣官房統計部『6次産業化総合調査』

※平成27年には、「漁家民泊」、「漁家レストラン」の調査項目を追加。

沖縄の農林漁業主要指標

項 目		単位	数 値	全国からみた 沖縄の地位		時 点	資 料 出 所	
				シェア (%)	順位			
土 地	耕 地 面 積	ha	38,000	0.86	35	平成30年7月15日	耕 地 面 積 調 査	
	田	"	822	0.03	46	"	"	
	畑	"	37,200	1.84	12	"	"	
	林 野 面 積	"	111,196	0.45	42	平成27年2月1日	農 林 業 セ ン サ ス	
人 口 と 労 働 力	総 農 家 数	戸	20,056	0.93	46	平成27年2月1日	農 林 業 セ ン サ ス	
	販 売 農 家 数	"	14,241	1.07	42	"	"	
	専 業 農 家 数	"	7,497	1.69	30	"	"	
	兼 業 農 家 数	"	6,744	0.76	45	"	"	
	林 業 経 営 体 数	経営体	10	0.01	47	"	"	
	漁 業 経 営 体 数	"	2,616	2.77	13	平成25年11月1日	漁 業 セ ン サ ス	
	農 家 人 口 (販 売 農 家)	人	37,642	0.77	45	平成27年2月1日	農 林 業 セ ン サ ス	
	農 業 就 業 人 口 (販 売 農 家)	"	19,916	0.95	42	"	"	
	漁 業 就 業 者 数	"	3,731	2.06	20	平成25年11月1日	漁 業 セ ン サ ス	
	自 営 漁 業 の みに 従 事	"	2,718	2.49	17	"	"	
	漁 業 雇 わ れ	"	1,013	1.41	24	"	"	
農作物の作付（収穫）面積と収穫（出荷）量	水 稲	作付面積	ha	716	0.05	46	平成30年産	水 稲 調 査
		収 穫 量	t	2,200	0.03	46	"	"
	1) 野 菜	作付面積	ha	2,130	0.45	45	平成28年産	野 菜 調 査
		収 穫 量	t	40,300	0.31	45	"	"
	パ イ ン ル ア ッ プ ル	収穫面積	ha	319	100.00	1	平成30年産 （概数）	果 樹 調 査
		収 穫 量	t	7,340	100.00	1	"	"
	さ と う き び	収穫面積	ha	13,100	57.96	1	平成30年産	甘 味 資 源 作 物 調 査
		収 穫 量	t	742,800	62.11	1	"	"
	き く	作付面積	ha	784	16.81	2	平成30年産 （概数）	花 き 調 査
		出 荷 量	千本	255,600	17.95	2	"	"
家畜の飼養頭数	乳 用 牛	頭	4,230	0.32	32	平成31年2月1日 （概数）	畜 産 統 計 調 査	
	肉 用 牛	"	74,700	2.98	9	"	"	
	豚	"	209,800	2.29	13	"	"	
	採卵鶏（種鶏を除く）	千羽	1,356	0.74	29	"	"	

1) 野菜調査（収穫量）の直近の全国調査は平成28年産であり、次回は令和4年産の予定となっています。
また、野菜調査は全国統一で調査する品目が対象で、ゴーヤー、へちま等は含まれていません。

沖縄の農林漁業主要指標（つづき）

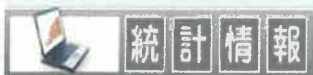
項 目		単位	数 値	全国からみた 沖縄の地位		時 点	資 料 出 所
				シェア (%)	順位		
農業産出額と生産農業所得	農 業 産 出 額	億円	1,005	1.08	33	平成29年	生産農業所得統計
	米	〃	5	0.03	46	〃	〃
	野 菜	〃	153	0.63	39	〃	〃
	果 実	〃	60	0.71	36	〃	〃
	パインアップル	〃	14	100.00	1	〃	〃
	工 芸 農 作 物	〃	210	10.88	4	〃	〃
	さ と う き び	〃	168	60.87	1	〃	〃
	花 き	〃	97	2.82	11	〃	〃
	畜 産	〃	457	1.41	21	〃	〃
	肉 用 牛	〃	228	3.12	8	〃	〃
	豚	〃	131	2.02	15	〃	〃
	鶏	〃	59	0.65	33	〃	〃
	生 産 農 業 所 得	〃	498	1.32	28	〃	〃
（一戸当たり） 農業経営	農 家 総 所 得	千円	3,507	66.81	…	平成29年	農業経営統計調査
	農 業 所 得	〃	1,344	70.48	…	〃	〃
	農 外 所 得	〃	1,015	71.58	…	〃	〃
	年 金 等 の 収 入	〃	1,148	59.67	…	〃	〃
林業産出額	林 業 産 出 額	千万円	61	0.14	44	平成28年	林 業 産 出 額
	木 材 生 産	〃	4	0.02	47	〃	〃
	薪 炭 生 産	〃	2	..	..	〃	〃
	栽 培 き の こ 類 生 産	〃	55	0.25	38	〃	〃
漁業生産量	海 面 漁 業 漁 獲 量	t	15,954	0.49	32	平成29年	海面漁業生産統計調査
	海 面 養 殖 業 収 獲 量	〃	20,842	2.11	…	〃	〃
	漁 業 総 生 産 量（計）	〃	36,796	0.87	…	〃	〃
漁業産出額	海 面 漁 業 産 出 額	百万円	12,371	1.29	22	平成29年	漁 業 産 出 額
	海 面 養 殖 業 産 出 額	〃	8,563	1.72	18	〃	〃
	漁 業 総 産 出 額（計）	〃	20,935	1.43	39	〃	〃
漁 船 隻 数	隻	2,933	1.92	21	平成25年11月1日	漁 業 セ ン サ ス	

注：農業経営（1戸当たり）のシェア（％）については、全国平均の数値に対する比較です。
平成29年漁業産出額の公表値から、中間生産物である「種苗」を除外しています。

統計データを見るなら

《各種ホームページの紹介》

農林水産省



【農林水産省 統計情報】

農林水産省が実施している統計調査結果が閲覧できます。

<http://www.maff.go.jp/j/tokei/>

農林水産部

【沖縄総合事務局 統計情報】

農林水産省が実施している統計調査結果のうち、沖縄の農林水産業に関する統計調査結果を掲載しています。

<http://www.ogb.go.jp/nousui/toukei/>

e-Stat

政府統計の総合窓口

【e-Stat 政府統計の総合窓口】

農林水産省を含む、政府が実施している統計調査の総合窓口です。

<http://www.e-stat.go.jp>

ただし、ホームページ上の情報は予告なしに内容を変更又は削除する場合があります。あらかじめ御了承ください。

統計データから見た沖縄の農林水産業

令和元年10月 発行

編集・発行者 内閣府沖縄総合事務局農林水産部統計調査課
〒900-8530 沖縄県那覇市おもろまち2丁目-1-1
TEL 098-866-0031(代) 内線 83401